

2014年10月2日

報道各位

住友金属鉱山株式会社
住友商事株式会社

チリ共和国シエラゴルダ銅鉱山の開山式について

住友金属鉱山株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長 中里 佳明、以下「住友金属鉱山」）および住友商事株式会社（本社：東京都中央区 代表取締役社長 中村 邦晴、以下「住友商事」）が、ポーランド共和国の大手産銅会社 KGHM Polska Miedz S.A.（以下「KGHM社」）とチリ共和国において共同で推進しているシエラゴルダ（Sierra Gorda）銅鉱山開発プロジェクト（以下「本プロジェクト」）につきましては、現地時間 10 月 1 日に同鉱山現地において開山式を執り行いました。

開山式には、チリ共和国ミシェル・バシェレ（Michelle Bachelet）大統領をはじめとするチリ共和国の政府関係者ならびにポーランド共和国および日本の政府関係者、地元関係者、取引先、金融機関、プロジェクト関係者など 1,000 名以上が列席されました。

本プロジェクトにより生産される銅精鉱の 50%は、住友金属鉱山が引取権を有しており、日本の銅資源の安定確保につながるるとともに、銅鉱山の開発は、チリ共和国の経済的発展にも寄与するものと考えております。

なお、シエラゴルダ銅鉱山で最初に生産される銅精鉱（約 6,000 トン）は、11 月に住友金属鉱山東予工場（愛媛県西条市）に到着する見込みです。

また、新たに採鉱計画を見直したことにより、シエラゴルダ銅鉱山の可採鉱量は、従来の約 13 億トン（銅品位 0.39%、モリブデン品位 0.024%、金品位 0.065 g/t）から、約 15 億トン（銅品位 0.40%、モリブデン品位 0.020%、金品位 0.065 g/t）に増加し、この結果、マインライフは従来公表の 20 年から 23 年に伸張しました。

一方、本プロジェクトの開発投資額は、従来想定約 39 億米ドルから約 42 億米ドル（リースによる鉱山重機の調達分を除く）に増加する見込みとなりました。投資額の増加の主な要因は、追加設計および工事遅延対策によるコスト上昇などによるものです。

本プロジェクトは、今後、鉱石処理量および銅精鉱生産量を徐々に増加させ、年内の商業生産開始を予定しています。

（本件に関する問い合わせ先）

住友金属鉱山株式会社

広報 IR 部 高橋 雅史

TEL：03-3436-7705

FAX：03-3434-2215

住友商事株式会社

広報部 報道チーム 伊東 沙耶佳

TEL：03-5166-4549

FAX：03-5166-6203

Sierra Gorda 銅鉱山開発プロジェクト概要



1) 位置

- ・チリ共和国第Ⅱ州 アントファガスタ市の北東 140 k m
- ・生産される銅精鉱は山元から既存の鉄道を使ってアントファガスタ港まで運搬し、そこから船積みする。

2) 可採鉱量（硫化鉱のみで酸化鉱を含まず）

約 15 億トン。含有金属量：銅約 6 百万トン、モリブデン約 30 万トン、金約 95 トン

3) 運営会社

Sierra Gorda SCM（シエラゴルダ鉱山会社、本社：チリ共和国サンチャゴ市、
出資比率：KGHM 社 55%、住友金属鉱山 31.5%、住友商事 13.5%）

4) 操業他

- ・採掘方法：露天掘り
- ・マインライフ：23 年予定
- ・平均年間生産量（含有金属量）：銅 22 万トン、モリブデン 1.1 万トン、金 2 トン
- ・選鉱操業：浮遊選鉱により銅およびモリブデン精鉱を産出

(写真)

【開山式】



※右から5人目：ミシェル・バチェレ大統領
左から4人目：住友金属鉱山 社長 中里佳明
左から3人目：住友商事 専務執行役員 藤田昌宏

【選鉱設備】

